



だより

— つながれ ひろがれ —

編集 環境パートナーシップちば
代表 桑波田 和子
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(財)千葉県環境財団環境技術部
業務管理グループ
電話 043-246-2180
FAX 043-246-6969

「平成23年の年頭に当たって」

千葉県環境生活部環境政策課長

梅木 弘

平成23年の新春を迎え、環境パートナーシップちばの皆様には、ますます御健勝のことと心からお喜び申し上げます。

環境パートナーシップちばの活動は、環境学習活動や地域の環境保全活動、地球温暖化防止、資源循環型社会づくりなど、多岐にわたります。会員の皆様には、県の環境学習アドバイザーやエコマインド養成講座の講師などを通し、千葉県の環境行政の推進に多大な御協力・御尽力をいただいております。心から感謝を申し上げます。

昨年9月に幕張メッセで開催された「エコメッセ2010inちば」においても、実行委員長を務めていただいた桑波田代表を中心に市民、行政、企業など様々な主体が協働することで、盛況のうちに開催されました。

多彩なテーマの下、出展団体の創意工夫による様々な展示が行われたことで、来場者はエコメッセ2009に続き1万人を超えることができました。あらためて感謝申し上げます。

昨年は「輝け！ちば元気プラン（千葉県総合計画）」が策定されました。この中で地球温暖化対策は重要な課題として掲げられ、県・市町村・県民・事業者などあらゆる主体が連携した取組の推進を明記しております。

また、資源の乏しい我が国にとっては、省エネという視点も極めて重要な課題ですが、家庭において、エネルギー使用状況の可視化などに取り組むことで、身近に環境問題を感じる格好の材料となるかと思えます。

このような取組の推進には、多様な主体をつなぐ、環境パートナーシップちばの皆様の役割が、一層重要になると考えており、皆様の活動にますます期待しているところです。

環境問題は、様々な主体が自主的に取り組むことはもとより、互いに連携・協働して解決に当たることが必要不可欠です。環境パートナーシップちばの理念の一つである「多様な主体をつなぎ、パートナーシップによる環境づくりを目指すこと」は大変重要な考え方であり、千葉県としても、引き続き様々な主体との連携・協働を図って参りますので、引き続き会員の皆様の御理解と御協力をお願いする次第です。

結びに、環境パートナーシップちばの更なる御発展と、会員の皆様の御健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



『より良いパートナーシップの推進を目指して』

代表 桑波田 和子

例年にない寒さの中、平成23年がスタートしました。会員の皆さまには明るい希望に満ちた新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

平成22年は生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が名古屋で開催され、生物多様性について理解や課題など学ぶ場の多い年でした。さらに世界や地域では、口蹄疫や鳥インフルエンザなど、生物を脅かす問題も多く見られました。人々の暮らしと生物多様性、地球温暖化等の関係も今後さらに解明されていくと思いますが、持続可能な社会の実現に向け、地球市民としての役割等明

確にし、課題解決に向けて活動していく自立した市民が必要とされます。さらに一人の環境への思いや活動が、連携・協働することで、より多くの人等を結び、社会の大きなうねりとなることも期待したいと思います。

温暖化防止や里山、生物多様性、ゴミ問題等多くの分野での活動されている会員の皆さまとの緩やかなネットワークを通して、今後ますます、市民・企業・行政とのより良いパートナーシップを推進していきたいと思っております。

皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

NPO を支援する IT 講習会（ちば NPO 月間 2010 行事）開催報告

サクサク作ろう♪ 効果的なイベントチラシ

日時：11月26日（金） 16時～17時30分 会場：船橋市男女共同参画センター
参加者：10名 主催：環境パートナーシップちば

プログラム

- (1) NPO のための、今すぐ！実践できる PR 文書の作り方講座 1
イベントチラシの作り方 講師：平田 耕（NPO 法人八千代オイコス）
マイクロソフト株式会社 西堀華子氏
- (2) NPO 運営支援講座のご紹介

【NPO の ICT 活用を支援する千葉県の取組み】

千葉県とマイクロソフト株式会社が、ICT（情報通信技術）利活用の促進を通じた地域の活性化を目的に、2010年2月から1年間の覚書を締結し、「地域活性化協働プログラム」を協働で実施しています。

その一環として、より良い地域づくりの担い手である NPO が、自立的・継続的に活動するための基盤強化を図るため、「IT リーダー養成講座」が実施され、31名の IT リーダーが誕生しました。IT リーダーは、「IT 活用講座」などを開催し、ICT を活用した NPO の運営ノウハウを、地域の NPO へ普及していく役割を担います。具体的には、文末のような講座を実施します。

【ICT31 キャンペーンとは】

しかし、県内の NPO の皆さんは、日々の活動に忙しく、ICT の必要性や利便性を感じる機会が得られない方も多いと思います。ICT31 キャンペーンは、県内 NPO が ICT を身近な道具として実感し、活動現場における ICT 利用の需要を喚起できるよう、IT リーダーの有志がチームを結成し、12月から3月の間、県内5地域で開催するものです。

ICT を活用し NPO のチカラを高めたい・・・そんな思いを持ちながら、マイクロソフト社の中でも内容の濃い、即、役立つ「お道具箱」を皆さんにご提供いたします。

【環パも IT 講習会でキャンペーンを支援】

実は、IT リーダーの一員となった私が環パちば運営委員会でこの話をしたところ、チラシ作成の話を聞いてみたいとの声が上がりました。そこで、キャンペーンに先駆け、講習会を企画することになり、自ら参加者募集のチラシを作成しました。

募集のチラシは、ICT キャンペーンで使うワードのテンプレート（ひな形）を使用しました。実際に自分で作成してみて、このテンプレートを埋めることだけ考えれば、チラシのデザインをどうし



ようかと今後悩まなくていいことに気づきました。

講習会当日は、内輪の紹介の方が中心で、広報活動の難しさも体験しました。イベントの成功は、内容だけでなく事前準備もあらゆる手を尽くしておくことが大事と感じました。そんな内容もマイクロソフト社の教材に盛り込まれていますが、これから私も実践で活用します。

講座では、チラシを実際に作成してゆく過程をお見せしましたが、ICT31 キャンペーンでは、参加者の皆さんにパソコンで実際に操作してもらいながら学べるよう計画されています。

環パちば初の IT 講習会は、運営委員の皆さまとマイクロソフト社の方に助けられ、無事終えることができました、感謝です。

【ICT31 キャンペーン開催予定と募集案内】

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kkbunka/ms/ict31.html> に案内がございます。

参加者は、マイクロソフト社が制作した下記講座の内容や実務で即使えるテンプレート集を無料で入手できます。

1. PR文書の作り方講座
2. プレゼンテーション講座
3. 情報発信講座
4. 会議運営ノウハウ講座
5. イベント運営段取り講座
6. アンケート活用講座

（文責：広報部）

「バイオマス」って何でしょう？

平成22年12月11日に、上記講演会が松戸市協働事業・成人環境講座として、アースコン・マツドと松戸市環境計画課減CO2（げんこつ）担当室の主催により、以下のようなプログラムで行われました。

＜プログラム＞

第一部 バイオマスについて

基調講演：バイオマスの利活用について

渡辺健一郎氏（千葉県資源循環環境推進課
バイオマスプロジェクトチーム）

バイオマスの事例紹介（中学校理科教育でBDF
を企業とのタイアップ）

高城英子氏（松戸市立小金中学校）

中山万奈美氏（戸田建設㈱）

地球にやさしい行動宣言 減CO2 担当室

第二部 バイオマス技術を農業に活用しよう

基調講演：近い将来の循環型農業＝
Bio Complex

阿部邦夫氏（㈱和郷 環境事業部 部長、
山田バイオマスプラント場長）

事例紹介：松戸農産物の紹介と地産地消の勧め
及川正一氏（まつど農産物直売組合 組合長）

本講座はバイオマスに関する基礎的理解と有機物循環型農業の取組み・実践の紹介などを通して、カーボンニュートラルであるバイオマスの利活用を身近なものとして学習する良い講習会になりま

した。以下に感想を記します。

第一部では、県から「バイオマスの利活用について」の現状説明がありました。県内のバイオマスは、多い順番に、家畜排せつ物、竹を含む木質類、食品廃棄物、農作物残渣となっています。国では、バイオマス推進基本法（平成21年9月施行）が施行されましたので、これを契機にさらなるバイオマスの利活用が期待されています。ちなみに、県内でバイオマスタウン構想は9市町村で公表されています。

次に、バイオマスの事例紹介では、簡単で、安全に廃食用油からBDF（バイオディーゼル燃料）をつくる理科の実験が紹介されました。松戸市立小金中学校の高城英子先生の指導の下に、生徒たちが作ったBDFが現実的に車を動かせることを地元企業の協力を得て実証しました。これは環境教育のすばらしい事例と思われました。

第二部では、「バイオマス技術を農業に活用しよう」という標題で、農業組合法人と郷園の阿部邦夫氏から「近い将来の循環型農業の姿」が提案されました。提案内容は、和郷園で培ってきた、牛糞たい肥、野菜たい肥、液体たい肥など5つの循環が基礎になっています。そして、タイで実証実験が行われているパームヤシ残渣を利用したバイオコンプレックスや日本でも実現可能な、豚を組み合わせたバイオコンプレックスが提案されました。この概念は、一言でいえば、近未来を見据えた循環型農業の普及に道を開くものと思われました。（文責：加藤）

「京葉ガス エコ・アクションサポート事業」

～子育て世代対象の講座を企画～

昨年12月、表記の助成金の交付が認められました。

かねてより、講座への若い世代の参加がほとんどないことに悩んでいます。

そこで、「環パちば・ふなばし」では、子育て世代に向けて、日本の伝統食作りを通じて地産地消等環境問題の連続講座（3回）を企画しました。

第1回目を、料理研究家の先生をお迎えして、下記のように実施します。

テーマ 「ひなまつりの太巻き寿司」

地元食材を使ったエコクッキング

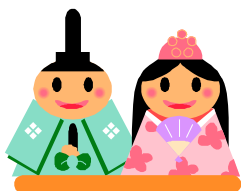
日時 平成23年3月1日10:00～12:30

場所 船橋市葛飾公民館

対象・定員 子育て中の方 24名

参加費 500円（材料費）

主催 環境パートナーシップちばふなばし



なぜ 地球が温暖化すると異常気象が増えるのか

小柴 厚(環境カウンセラー)

異常気象が増えているかどうか、これはなかなかむずかしい問題です。異常気象は、災害をともなうなど社会的に影響が大きい気象現象とか、30年に1度程度発生する現象とか定義されています。地球が温暖化するのにもなって、猛暑や暖冬など気温の高い日が増え、冬日など寒い日が減ってきています。地球温暖化について研究し、その影響や対応を世界的な規模でとりまとめているIPCC(気候変動に関する政府間パネル)や、日本政府がとりまとめた「日本の気候変動とその影響」統合レポートでも、詳しく紹介されています。

しかし、異常気象が増えている理由、なぜ増えているのかについては、研究者の間でも意見がまとまっていません。元気象研究所の増田善信博士は、異常気象を、竜巻や集中豪雨などの激しい現象と、暑夏など同じような気圧配置が長続きする現象という2つのタイプに分けて、その理由を解明する異常気象学を提唱して研究をすすめています。

地球温暖化は、地球大気の温室効果によって地球表面付近(対流圏)の気温が上昇することです。この温室効果をざっとおさらいしましょう。図はIPCCのよくある質問と回答に掲載された説明図です。地球の気温が上昇するというと、太陽からの熱の一部がたまっているのではないかと思われる方もいらっしゃるようですが、これは誤解です。

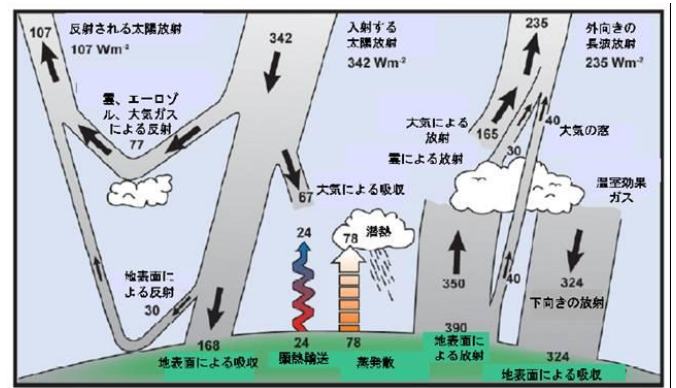
太陽からくる熱エネルギーは昼夜平均すると1平方メートルあたり342ワットです。一方、地球から出ていく熱エネルギーは、雲や地球表面から反射された107ワットと地球大気から放射される235ワットです。地球に入ってくる熱エネルギーと出ていく熱エネルギーはプラスマイナス・ゼロであり、バランスしています。冬の夜に空が晴れていると放射冷却で冷えこみます。二酸化炭

素による温室効果は、この冷えこみが弱くなっている現象です。二酸化炭素は、いったん大気中に放出されると植物の光合成や海洋にとけこむ以外には取り除かれませんが、影響が世界中におよぶということで発生源で減らすと取り組みが必要です。

地球大気の温室効果の大部分は、二酸化炭素よりもはるかにたくさんある水蒸気の効果です。水蒸気は、ずっと長い期間、地球の大部分の動植物にとって快適である気温、平均すると18℃という温度をたもってきました。しかし、人間の社会生産活動にともなって排出される二酸化炭素の温室効果によって地球の気温が急激に上昇している、これが地球温暖化問題です。

千葉県は、気象災害がすくない県ですが激しい現象もあります。竜巻も太平洋側の山武市や鴨川市だけでなく東京湾沿岸でも発生しています。また、1時間あたりの降水量の第1位は千葉県香取の153mm、銚子も第9位140mmです。日最高気温は熊谷や岐阜多治見の40.9℃ですが市原市牛久でも40.2℃を記録しています。

地球温暖化や都市化にともなって千葉市などでも高温の日が増えていきます。暑い日差しのなかの運動には注意することが必要ですし、それとともに熱帯夜が増えていることから夏の夜間には熱中症に注意することが必要になってきています。



ご案内

2月の環境パートナーシップエコサロ テーマ ブランドイチゴの「ここが知りたい！」 品種はこうしてつくられる ～農業と食を考える～

日時：2月17日(木) 午後5:30~7:30

場所：千葉市民活動センター大会議室

話題提供者：石川 正美氏(千葉県農林総合研究センター育種研究所

野菜緑化育種研究室 室長)

内容：イチゴを中心に「品種はこうして作られる」というお話から、環境との係わり、食の安全性、安定供給などについて話題を提供いただきます。車座会談の時間もたっぷりとりまします。お気軽にご参加ください。

参加費：500円(資料代)

申し込み：090-5415-9074(桑波田) Email: kuwahatak@hotmail.com

地球のステージ

2011年1月15日(土)に、ガールスカウト千葉県支部結成40周年記念のプログラムとして、「地球のステージ」が開催されましたので、ご紹介いたします。

地球のステージとは、1996年1月15日から始まった(この日が15歳の誕生日!)ライブ音楽と大画面の映像、スライドによる語りを組み合わせた、「コンサート・ステージ」で、世界で起きている様々な出来事(紛争、貧困)を、講演形式ではなく、音楽と大画面のビデオ、スライドに写しだし、語りと曲で構成していく「映像と音楽のシンクロ」ステージでした。

精神科医をしている桑山紀彦氏が映像と歌で案内役として出演しています。彼はこれまで57か国を歩き、国際医療救援活動を展開してきた方で、2002年には、NPO法人「地球のステージ」設立、代表理事となっています。

このステージに、私がはじめて出会ったのは高橋晴雄さんから案内された四街道(2004年

頃でしたか)での映像と音楽でわかりやすく国際理解につながっているステージで大変感動しました。

今回は、対象が小学生から大人までと幅広い年代ですが、スカウト活動を話の中に混ぜ興味を引きながら、子どもたちにも理解できる言葉を選んでいただけ、子どもたちも初めて体験するステージに見入っていました。子どもを見守る立場の指導者にも良いステージでしたと、桑山先生に感謝されていました。

「地球のステージ」に興味をもたれた方は、<http://www.e-stageone.org/>を見ていただくと、今後のステージ予定も掲載されています。学校行事や、学校のPTAの研修部会などが主催している場合ももっとも多く、その約8割が学校現場となっていることは、私たち環境学習に関わる立場の者にとっては大きな教育力としてのステージとして、とても参考になると思いました。

(文責:横山)

社会実験(印旛沼から取手防災船着場)に参加してきました

平成22年10月8日に開催された「川と沼ですてきな!体験を提案する全国大会inちば」では、水の回廊・舟運に関心を持つ方が多くありました。この大会の併催として「川での福祉・医療と教育の全国大会」も開催しました。この併催大会の発案者でもある吉川勝秀教授(日本大学)の社会実験が、昨年12月17日に行われ、参加しましたので報告いたします。

吉川教授の社会実験は、利根川・印旛沼・花見川そのものと沿川の魅力資源の調査、航行の物理的な制約等、需要の創出と将来の舟運の事業化、それによる地域再生や観光の検討を行うことを目的として、昨年12月17日(金)行われました。

参加者は、吉川教授と日本大学理工学部水環境システム研究室の学生、舟運等の関係者、千葉県河川課など12名です。実験は、船と陸上調査の2グループに分かれ、8名が乗船しました。舟は印旛沼漁業協同組合のビニールの屋根が付いただけの漁船です。行程は、9時に鹿島川のさくら橋のあたりから乗船し、西印旛~北印旛沼、酒直水門を出て、利根川、取手防災船着場に12時50分着です。17日は晴天の寒い日でした。印旛沼の水面は



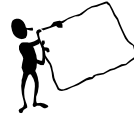
なぎ(凧)で鏡のように青空を映し舟のエンジンの音だけが響き渡ります。カワウ、カモ、ダイサギ等多く見られ、小魚を取るための柴づけもあり、豊かな生き物の場と感じました。酒直の水門に到着し、船渡し作業を体験しました。長門川と利根川の水位差は、この日は約1メートル位でした。水門の壁には特定外来種のカワヒバリガイ(イガイ科)が付着し、船長さんのお話では、利根川に多く舟や水管等に付着する被害があるそうです。利根川に出ると舟の周りを大きなハクレンが飛び跳ね、圧倒されました。利根川は風が吹き寒さが応えました。途中、栄町の出津防災センターに立ち寄り、センターからは、遠くに日光連山が見えました。11時20分取手に向け出発し、舟からは、自然豊かで優雅な景観が続きます。取手の船着き場には、全国大会に参加された小貝川プロジェクト方々が迎えてくださり、昼食をはさんで温かな交流の場となりました。

社会実験に参加して、景観の素晴らしさ、水面の気持ちよさ、自然の素晴らしさ、川が取り持つ人とのつながり等を感じ、今後の活動に活かしていきたいと思いました。

(文責:桑波田)



県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 3 — おききました！ この人・この団体



団体名	ちば河川交流会
活動地域	千葉県
活動分野	遺しておきたい伝えたい千葉の水辺（自然・景観・土木遺産）
活動目的	水辺環境の保全
主な活動内容	水辺環境の現地調査、冊子の発行・配布、環境教育等

環パの広報部員が、ちば河川交流会の松尾さんにお聞きしました。

質問 ちば河川交流会はどんな団体ですか。

お答え 当会は、平成11年に、日本河川協会の会報誌「河川文化」の個人会員が集まり創設した会で、当初は県内の川や水に関わる土木遺産の調査研究からスタートし、現在会員数約200名を擁しています。土木遺産調査は現在まで53か所を行い、平成21年に創立10周年を記念し、「遺しておきたい伝えたい千葉の水辺（自然・景観・土木遺産）」の冊子を2編に分けて刊行しました。編集は、1箇所につき1ページを使い、所在地、施設概要、アクセス等を記載し、一般の方が利用し易い形式としています。

この他の活動として、子ども向けの環境教育として水辺に親しむ活動の支援等を行っています。



印旛放水路
サイクリング
参加者

質問 松尾弘道さんは、特に「印旛沼開削工事」に関心を持たれ活動をされていると伺っていますが、どんな活動を行っておられるのでしょうか。

お答え 数年前に、当会主催の印旛放水路サイクリングをした時に、江戸時代に印旛沼の治水対策等のために行われた「印旛沼開削工事」について調べました。

その結果、この工事の難しさと工事に携わった庄内藩の苦労の大きさが良く解りました。

また、そのような先人達の苦労があって、昭和40年代に至り印旛沼と東京湾がつながったわけで、この恩恵を受ける千葉県民は、庄内藩に対しお礼を申し上げなければならないと思います。

質問 庄内藩は、具体的にどんな苦勞をしたのでしょうか。

お答え 庄内藩は、特に深い掘削を要し、また超軟弱な土質区間であった、現在の八千代市横戸町を担当することになりました。夏の暑い盛りに総勢1,500名が現場まで500キロ、2週間を歩き通しました。その後、約2カ月間の死者19名を出すような過酷な労働に従事しましたが、結局、幕府は諸般の事情により工事を中断してしまいました。

質問 松尾さんは、過去の文献などによりこの工事の内容を調査するとともに、最近、庄内藩があった酒田市や遊佐町まで赴き調査をしてこられたそうですが、どんなことが分りましたか。

お答え この工事に従事した人達は、郷里に帰って自分たちが体験したことを、いろいろな形で遺しました。

その一つが日向川の新川開削工事。日向川は酒田市で日本海に注ぐ直前で、庄内砂丘に阻まれ大きく屈曲していたが、それを開削（ショートカット）して水害防止、新田開発を行いました。

その二が、酒田市北部の遊佐町。鳥海山から流れ来て日本海に注ぐ月光川のほとりにムクノキの大木があります。遊佐郷の肝煎り土門六左エ門が堀割普請時、庄内藩の飯場近くから持ち帰った幼木が雪国の厳しい環境のなかで150年余経った現在、山形県の天然記念物に指定されるまでに大きく育っています。

その三が、酒田近傍の庄屋久松久作は印旛沼堀割普請のことを克明に記録し、日記、絵図として残している。これらの資料は天保期の印旛沼堀割普請の全体像を解明するのに多大な貢献をしました。

質問 松尾さんの今後の展望を、お聞かせ下さい。

お答え このような昔の縁をもとに、千葉市や八千代市と遊佐町や酒田市との地域間交流が始まることを切に願っています。（広報：牧内）

運営委員会報告

12月運営委員会

日時 平成22年12月10日(水)
場所 千葉市民活動センター大会議室

報告・協議

- ① IT講習会の報告
- ② だより77号について
- ③ 12月エコサロン
- ④ 総会へ向けて

1月運営委員会

日時 平成22年1月18日(火)
場所 船橋市民活動センター

報告・協議

- ① 12月エコサロンの報告
- ② 2月エコサロン
- ③ 千葉市公民館講座
- ④ LOVE OUR BAY 募金申請

お知らせ

「つないで楽し! 環境学習」

日時: 2月26日(土) 13:30~16:30
会場: 千葉市ビジネス支援センター
きぼーる 15階 会議室4

プログラム

- ★基調講演 「繋がる、広がる、環境教育」
市野 敬介氏 ELCoの会代表
NPO 法人企業教育研究会事務局長
 - ★活動報告 企業・地域・学校等の例
- 参加人数: 40名(先着順) 参加費: 無料
主催: ELCoの会
問い合わせ等: 090-9156-6757(井上)
E-mail: elcochiba@gmail.com

やちよ里山シンポジウム2011

残す・つなぐ・活かす・まもる

日時: 3月26日(土) 13:30~16:45
会場: 八千代台文化センター 多目的ホール
(京成八千代台駅徒歩2分)

プログラム

- ◆基調講演 「里山保全と生物多様性」
吉田 正人氏(筑波大学院准教授)
 - ◆活動紹介
「ちば谷津田再生会記念病院」ってどんな病院
手塚 幸夫氏(夷隅郡市自然を守る会事務局長)
- 参加募集人数: 150名 参加費: 無料
主催: 八千代市環境保全課環境政策室
問合せ: 八千代市環境保全課 047-483-1151

◆広報部より

1. 皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せください。
2. ホームページに団体のリンクや連絡先としてメールアドレス等の記載をご希望の方はご連絡ください。

HP: <http://kanpachiba.com> E-mail: info@kanpachiba.com

再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先: 千葉県環境財団 環境技術部
環境活動推進チーム気付

TEL: 043-246-2180 FAX 043-246-6969

会費納入先: 環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872 千葉県環境財団

環境技術部 環境活動推進チーム気付

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)
会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人 1,000円 団体 2,000円 賛助会員 5,000円		